

第13回 全日本

学生フォーミュラ



2015.9.1-5 **ECOPA**
[会場] 静岡県小笠山総合運動公園 エコパ

大会レビュー

ICV総合優秀賞
日本大会初参加初優勝!

Graz University of Technology が示した世界水準

- 2位 京都工芸繊維大学
- 3位 名古屋工業大学
- 4位 同志社大学
- 5位 大阪大学
- 6位 日本自動車大学校



EVクラス

静岡理工科大学EVが
3連覇



GREETINGS

ご挨拶 | 2015 Student Formula Japan

大会を終えての総評

「第13回 全日本 学生フォーミュラ大会」は、大会運営サイドの得点集計ミスと最終日の表彰式での手違い等で多くの大学関係者並びに本大会の後援・スポンサーの皆様にご迷惑とご心配をおかけしましたことをあらためて深くお詫び申し上げます。来年の大会では、二度とこの様なことのないように自動車技術会の総力を挙げて再発防止に努めて参りたいと思います。

さて、今年の大会は国内外から90チームのエントリーがあり、書類選考やシェイクダウン証明を通過し、最終的に大会出場に至ったのが86チームでした。また、大会参加者数は、延べ約1万5千人を上まわり過去最高となりました。多くの皆様にご来場いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

秋雨前線の影響で大会初日の開会式は雨模様の中で行なわれ、大会3日目は朝から激しい雷雨に見舞われ、オートクロス審査が途中で中止となりましたが、最終日は晴天の中でのエンデュランス審査が予定通り行なわれ、無事終了することができました。

今年から大会会場のレイアウトを大幅に見直し、チームピットや静的審査会場をスタジアム内に移しました。これにより、お客様には少しご不便をおかけしたかもしれませんが、運営面では雨天によるスケジュールの遅れを最小限に食い止められたのではないかと思います。

大会の結果は、ヨーロッパの強豪チ

ームのグラーツ工科大学が日本大会に初出場で初優勝、第2位が京都工芸繊維大学、第3位が名古屋工業大学、以下、同志社大学、大阪大学、日本自動車大 学校でした。本大会は、「日本のものづくり」の次代を担う人材を育成する活動として2003年にスタートして以来、すでに多くの卒業生が自動車産業をはじめとするものづくりの第一線で活躍しはじめています。1年間の努力、活動のプロセスは皆さんの人生にとって何にも増して得難い貴重な経験であったと思います。この経験を踏まえて、次代を担うエンジニアになっていただくことを願ってやみません。

私自身、大会委員長として初めて本大会に参加させていただきましたが、学生の皆さんの目の輝き、また、熱い心で車づくりに取り組んでいる姿を拝見し、感動いたしました。そして、我が国の自動車産業の発展の一翼を担うと言っても過言でない、この全日本学生フォーミュラ大会を今後も発展させていかねばならないと強く思いました。

最後になりましたが、本大会の開催・運営に際し、後援、協賛、ならびにご支援をいただいた産学官各方面の皆様、多大なご協力をいただきました地元の静岡県をはじめ、掛川市、袋井市の関係者の皆様、また、大会スタッフの派遣にご協力いただきました企業、大学関係者の皆様、スタッフの皆様方に、主催者代表として心より厚く御礼申し上げます。



大会委員長

小西 工己

Koki Konishi
(トヨタ自動車)

GREETINGS

ご挨拶 | 2015 Student Formula Japan

第13回 全日本 学生フォーミュラ大会を振り返って

本大会は、我々運営側の不手際によりまして、参加チームおよびその関係者並びに後援・スポンサーの皆様に変な迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。このたびの得点集計のミスは、すべての審査イベントにおいて発生しており、この問題を全審査員・運営スタッフとともに深く受け止め、集計システムの問題解決を実施し新たな集計システムを構築し、再発防止に努めてまいります。

今年の大会は、以下の新たなことに取り組ませていただきました。

●参加者の方々&スタッフの安全性向上を目的としたスタジアムの活用

→初日から3日目まで雷雨に見舞われましたが、落雷対策とレイアウト変更が狙いどおり機能し、車検および静的審査はスケジュールどおり行なうことができました。

●プラクティス場の面積拡大（芝生広場有効利用）

→エンジントラブルに起因する大きな事故は、8年ぶりに根絶することができ、事故による動的審査スケジュールへの影響をなくすことができました。

●海外デザイン審査員の招聘

→デザインのアドバイザーとして期間中、参加者への指導およびスタッフと審査に関する情報交換などで交流を図り国際化に貢献。

●EV促進のための、講習会拡充や大会でのコンポーネント展示

→動的審査参加台数倍増。

●認知度向上のための、開会式と交流会

→準備不足のため、開会式では雨天対応にとまどい、交流会は参加しにくい時間での開催ではありましたが、大勢の方々にお越しいただき、さまざまな交流が図られました。

新規取組項目に関しては、概ね好評価をいただいております。狙いどおりの効果を出せたのではないかと思います。

しかしながら、以下のようないくつかの要改善点が露呈しております。

●ピットレイアウトの不公平性

●競技車両輸送の参加者への負担大

●余裕のない大会スケジュール

（悪天候でオートクロスキャンセル）

●海外チームとのコミュニケーション

皆様から寄せられたご意見ご提案を取り込みながら、微力ながら私をはじめ実行委員会メンバー全員の総力を結集し、来年の大会では、集計システムおよび上記改善点を考慮したより良い運営体制を整え、皆さんの車両・チームをお迎えできるよう努めてまいります。元氣な笑顔でまた再会できることを楽しみにしております。



実行委員会委員長

松本 保志

Yasushi Matsumoto
(トヨタ自動車)



第13回 全日本 学生フォーミュラ大会レビュー 目次

第1部 レビュー

- 002 第13回大会を終えて
大会委員長 小西 工己
- 003 第13回大会を振り返って
大会実行委員会委員長 松本 保志
- 004 目次
- 005 主催・後援・協賛・大会スタッフ
- 006 大会スポンサー
- 007 受賞チーム表彰
- 008 大会概要
- 009 大会スケジュール

最優秀賞受賞校解説レポート

- 010 最優秀デザイン賞 Graz University of Technology
- 012 最優秀プレゼンテーション賞 同志社大学
- 014 最優秀コスト賞 同志社大学

審査講評

- 016 車検イベント 山岸 康一
- 017 静的イベント 林 裕人
- 動的イベント 中澤 広高
- 018 コスト審査 鈴木 健
- プレゼンテーション審査 馬場 雅之
- 019 デザイン審査 長谷川 淳一
- EV審査 玉正 忠嗣

特集記事

- 020 参加チームクローズアップ 一関工業高等専門学校 / 岩手大学 / 岩手県立大学EV
- 022 フォトダイアリー
- 027 フォローアッププログラム
- 029 わが校、わがチーム自慢の○×△!
- 031 クロード・ルエル氏からのメッセージ
『世界をめざせ!』

第2部 大会記録集

No.1 名古屋大学	034	No.35 北海道大学	065	No.68 広島工業大学	096
No.2 京都大学	035	No.36 福井大学	066	No.69 東京工科大学自動車学校世田谷校	097
No.3 同志社大学	036	No.37 大阪工業大学	067	No.70 Liaoning University of Technology	098
No.4 豊橋技術科学大学	037	No.38 日本大学理工学部	068	No.71 KOREA TECH	099
No.5 京都工芸繊維大学	038	No.39 立命館大学	069	No.73 麻生工科大学自動車学校	100
No.6 東海大学	039	No.40 静岡大学	070	No.74 青山学院大学	101
No.7 名古屋工業大学	040	No.41 上智大学	071	No.76 Universitas Negeri Yogyakarta	102
No.8 横浜国立大学	041	No.42 広島大学	072	No.77 山口大学	103
No.9 日本自動車大学校	042	No.43 トヨタ名古屋自動車大学校	073	No.78 Taipei Tech	104
No.10 芝浦工業大学	043	No.44 早稲田大学	074	No.81 Graz University of Technology	105
No.11 千葉大学	044	No.45 岡山大学	075	No.E1 静岡理科大学EV	106
No.13 金沢大学	045	No.47 Institut Teknologi Sepuluh Nopember Surabaya	076	No.E2 東北大学EV	107
No.15 東京理科大学	046	No.48 岐阜大学	077	No.E3 トヨタ名古屋自動車大学校EV	108
No.16 大阪大学	047	No.49 愛知工業大学	078	No.E4 Chulalongkorn University EV	109
No.17 神戸大学	048	No.50 ものつくり大学	079	No.E6 Tongji University EV	110
No.19 東京大学	049	No.51 新潟大学	080	No.E7 一関工業高等専門学校 / 岩手大学 / 岩手県立大学 EV	111
No.20 工学院大学	050	No.52 摂南大学	081	No.E8 新潟理科大学 EV	112
No.21 Tongji University	051	No.53 明星大学	082	No.E9 九州工業大学 EV	113
No.22 日本工業大学	052	No.54 久留米工業大学	083		
No.23 静岡理科大学	053	No.55 山口東京理科大学	084	審査結果	114
No.24 名城大学	054	No.57 崇城大学	085	集合写真/会場図	115
No.25 大阪産業大学	055	No.58 岡山理科大学	086		
No.26 山梨大学	056	No.59 富山大学	087		
No.27 ホンダ テクニカル カレッジ 関西	057	No.60 国士舘大学	088		
No.28 九州工業大学	058	No.61 千葉工業大学	089		
No.29 東京農工大学	059	No.62 日本大学生産工学部	090		
No.30 成蹊大学	060	No.63 埼玉工業大学	091		
No.31 宇都宮大学	061	No.64 静岡工科大学自動車学校	092		
No.32 慶應義塾大学	062	No.65 ホンダ テクニカル カレッジ 関東	093		
No.33 東京都市大学	063	No.66 鳥取大学	094		
No.34 金沢工業大学	064	No.67 北九州市立大学	095		

Organizations & Officials of the Competition

主催・後援・協賛・大会スタッフ

主催

公益社団法人自動車技術会

後援

文部科学省
経済産業省
国土交通省
静岡県
掛川市
袋井市
掛川市教育委員会
袋井市教育委員会
掛川商工会議所
袋井商工会議所
日本自動車工業会
日本自動車部品工業会
NHK
TBSテレビ

テレビ朝日
静岡新聞社・静岡放送
静岡朝日テレビ
静岡第一テレビ
テレビ静岡
K-mix
朝日新聞社
読売新聞社
毎日新聞社
日本経済新聞社
日刊工業新聞社
フジサンケイ ビジネスアイ
日刊自動車新聞社

協賛

産業技術総合研究所
交通安全環境研究所
日本自動車研究所
日本私立大学協会
日本私立大学連盟
公立大学協会
国立高等専門学校機構
日本工学会
日本ゴム工業会
計測自動制御学会
潤滑油協会
日本機械学会
日本工学会教育協会
日本工作機械工業会
日本ゴム協会
日本材料学会
日本自動車タイヤ協会
日本設計工業会
日本陸用内燃機協会
溶接学会
日本自動車車体工業会
日本自動車整備振興会連合会
日本自動車機械器具工業会
日本自動車連盟(JAF)
日本自動車販売協会連合会
土木学会
全国自動車学校・整備専門学校協会
電気学会

大会スタッフ

【本部】

大会委員長 小西 工己(トヨタ自動車)

大会副委員長 杉本 富史(本田技研工業)

大会副委員長 窪塚 孝夫(自動車技術会)

大会実行委員長 松本 保志(トヨタ自動車)

【車検】リーダー 山岸 康一(トヨタ自動車)

青柳宗一郎 (カルソニックカンセイ) 辻一太郎 (堀場製作所)
秋月信也 (日産自動車) 利谷洗貴 (トヨタ自動車)
岡久根良斗 (本田技術研究所) 長沢一也 (本田技術研究所)
天野勝弘 (静岡理工科大学) 和田なつみ (小野測器)
飯塚政雄 (マイスタークラブホンダ) 永田将太 (トヨタ自動車)
池ヶ谷 潔 (ニスモ) 久保直紀 (小野測器)
石川大毅 (堀場製作所) 中野健太郎 (ブリヂストン)
井筒裕紀 (ダイハツ工業) 仲野敬一 (堀場製作所)
井出 温 (マイスタークラブホンダ) 長浜清香 (小野測器)
大坪正典 (堀場製作所) 名波則路 (日本大学)
岡崎昭仁 (日本工業大学) 西 英之 (マツダ)
小川 哲 (ダイハツ工業) 根岸 秀 (富士重工業)
小川勝一 (カルソニックカンセイ) 早川右真 (三菱自動車工業)
笠谷順一 (川崎重工業) 原廣泰信 (ヤマハ発動機)
勝野洋司 (ブリヂストン) 福嶋大吾郎 (三菱自動車工業)
加藤祐規 (いすゞ自動車) 堀内 誠 (日産自動車)
狩野康行 (小野測器) 堀井愛土 (堀場製作所)
川崎昌彦 (富士テクノサービス) 本田祐介 (ヤマハ発動機)
菊池文明 (マイスタークラブホンダ) 松浦孝也 (堀場製作所)
木下芳人 (コマツ) 滝尾 哲 (トヨタ自動車)
久野富士夫 (マイスタークラブホンダ) 三宅 博 (UDトラックス)
黒澤達夫 (マイスタークラブホンダ) 宮田卓英 (マイスタークラブホンダ)
森原 弘 (横浜国立大学) 宮田敏夫 (マイスタークラブホンダ)
小宮敏也 (トヨタ自動車) 森本幹大 (マツダ)
小牟田治良 (三菱自動車エンジニアリング) 森 伸一 (ヨコハマ・スノー・インダストリアル)
坂本雄祐 (トヨタ自動車) 山田 滋 (マイスタークラブホンダ)
鹿内佳人 (静岡理工科大学) 油井大地 (コマツ)
清水俊成 (いすゞ自動車) 横尾貴史 (コマツ)
関内秀夫 (マイスタークラブホンダ) 植山哲也 (マツダE&T)
関口昌邦 (マイスタークラブホンダ) 吉田幸司 (日本大学)
関根太郎 (日本大学) 吉野文隆 (マイスタークラブホンダ)
関谷直樹 (日本大学) 龍 重法 (堀場製作所)
高野 修 (マイスタークラブホンダ)
千葉康智 (スズキ)

【静的審査】リーダー 林 裕人(豊田自動織機)

有ヶ谷英人 (オイレ工業) 千田孝之 (日本発条)
石坂孝史 (本田技術研究所) 高井善一郎 (ポランディア)
石田幸大 (ヤマハ発動機) 田邊和也 (本田技術研究所)
出田浩之 (スズキ) 塚崎公治 (トヨタ車体)
射延恭二 (デンソー) 塚本将弘 (トヨタ自動車)
大谷寺司 (富士重工業) 寺門 晋 (トヨタ自動車)
奥田昌毅 (いすゞ自動車) 戸田宗敬 (スートプレス工業)
音部哲郎 (豊田自動織機) 友部貴仁 (スズキ)
小野昌朗 (東京アールアンドデー) 中沢大一 (日産車体)
影山邦衛 (ポランディア) 永田健二 (アイシン精機)
河西信之 (トヨタ自動車) 中山純一 (日産自動車)
加藤 寛 (日本精工) 西内 徹 (カルソニックカンセイ)
菊地敏博 (マツダ) 西本幸司 (日産自動車)
菊地茂美 (東京アールアンドデー) 二見美貴 (富士テクノサービス)
菊地拓史 (ヤマハ発動機) 萩原 翔 (日産自動車)
神丸慎二 (富士重工業) 長谷川淳一 (トヨタ自動車)
小野研一 (日産自動車) 馬場雅之 (本田技術研究所)
神谷裕二 (三菱自動車工業) 林真佐夫 (ダイハツ工業)
小西健也 (ダイハツ工業) 半谷まゆみ (トヨタ自動車)
小松 寿 (スズキ) 松尾和哉 (愛知機械工業)
米谷亮平 (ダイハツ工業) 松本孝史 (川崎重工業)
近藤 隆 (日立オートモティブシステムズ) 峰田直樹 (ショーフ)
坂倉克之 (ポランディア) 宮坂 宏 (ポランディア)
佐藤孝之 (オートテックジャパン) 宮崎知之 (NSKワナー)
佐藤光広 (住友ゴム工業) 宮澤裕裕 (アイシン精機)
飯島勝幸 (日野自動車) 望月広光 (日産自動車)
沢田 護 (デンソー) 森岡 宇 (ポランディア)
下澤知巳 (富士重工業) 森元孝輝 (ジヤコ)
城坂哲哉 (マツダ) 山崎貴也 (いすゞ自動車)
月森博基 (日立オートモティブシステムズ) 山田泰之 (日産自動車)
鈴木健二 (マツダ) 山本貴史 (日産自動車)
鈴木栄一 (ブリヂストン) 橋山昭行 (いすゞ自動車)
鈴木 健 (ポランディア) 林 江路 (ゼット・エフ・ジャパン)
鈴木弘道 (三菱自動車工業) 若松和夫 (ポランディア)

【動的審査】リーダー 中澤 広高(本田技術研究所)

相羽岳志 (ゼスト) 田島史彦 (プレス工業)
青柳謙二 (ヤマハ発動機) 田代純一 (ダイハツ工業)
秋山慎也 (ゼスト) 谷本隆一 (愛知工業大学)
阿部翔太 (SPACE Japan) 筑野憲人 (トヨタ自動車)
井古田佑 (日産車体) 津田 顕 (マツダ)
石井 樹 (スズキ) 常田高人 (日信工業)
石津克範 (トヨタ自動車) 鶴岡康仁 (ゼスト)
和泉恭平 (川崎重工業) 長崎和仁 (トヨタ自動車)
位田晴良 (福井工業大学) 永椎 光 (本田技術研究所)
伊藤昭雄 (ゼスト) 中野大輝 (日産自動車)
井富真琴 (ジヤコ) ナンステア (本田技研工業)
福川 巨 (ホンダテクノフォート) 西尾 遼 (川崎重工業)
井原航也 (東洋ゴム工業) 野田智哉 (スズキ)
茨木 浩二 (デンソー) 茨木 浩二 (デンソー)
横田智幸 (三菱自動車工業) 横田淳平 (トヨタ自動車)
遠藤祐介 (アイシン精機) 遠藤祐介 (アイシン精機)
太田博重 (アイシン精機) 太田博重 (アイシン精機)
大竹賢宜 (トヨタ車体) 大竹賢宜 (トヨタ車体)
大橋佑太 (トヨタ自動車) 大橋佑太 (トヨタ自動車)
岡 秀樹 (スズキ) 岡 秀樹 (スズキ)
岡本拓也 (日信工業) 岡本拓也 (日信工業)
岡森貴史 (トヨタ自動車) 岡森貴史 (トヨタ自動車)
小倉直也 (ヒロシ) 小倉直也 (ヒロシ)
織田慎一 (ゼスト) 織田慎一 (ゼスト)
小野靖治 (日野自動車) 小野靖治 (日野自動車)
小原和孝 (トヨタ自動車) 小原和孝 (トヨタ自動車)
加久信晃 (ホンダテクノフォート) 加久信晃 (ホンダテクノフォート)
勝野嘉文 (ゼスト) 勝野嘉文 (ゼスト)
河合優輝 (三菱自動車工業) 河合優輝 (三菱自動車工業)
北山 周 (スズキ) 北山 周 (スズキ)
木村洋介 (トヨタ自動車) 木村洋介 (トヨタ自動車)
小市政志 (スズキ) 小市政志 (スズキ)
小味富治 (ゼスト) 小味富治 (ゼスト)
小林興次 (ヤマハ発動機) 小林興次 (ヤマハ発動機)
松本知之 (スズキ) 松本知之 (スズキ)
西城雄二 (ヤマハ発動機) 西城雄二 (ヤマハ発動機)
齊藤宏樹 (ジヤコ) 齊藤宏樹 (ジヤコ)
佐々木康行 (ゼスト) 佐々木康行 (ゼスト)
澤田 徹 (スズキ) 澤田 徹 (スズキ)
清水圭吾 (マツダ) 清水圭吾 (マツダ)
新屋泰彦 (マツダ) 新屋泰彦 (マツダ)
鈴木浩樹 (富士重工業) 鈴木浩樹 (富士重工業)
鈴木裕也 (日産車体) 鈴木裕也 (日産車体)
関根新太郎 (本田技術研究所) 関根新太郎 (本田技術研究所)
関屋英行 (ジャコエンジニアリング) 関屋英行 (ジャコエンジニアリング)
高野祥子 (ヒロシ) 高野祥子 (ヒロシ)
高橋明宏 (ケーヒン) 高橋明宏 (ケーヒン)
武田卓也 (トヨタ自動車) 武田卓也 (トヨタ自動車)
武田智行 (日産自動車) 武田智行 (日産自動車)
武知弘晃 (デンソー) 武知弘晃 (デンソー)

【EV】リーダー 玉正 忠嗣(日産自動車)

上田貴之 (マツダ) 古賀大介 (マツダ) 平井 齊 (プロトラッド) 柳田靖人 (ダイキン工業)
遠藤睦也 (日産自動車) 笹井健史 (コマツ) 堀原直幸 (三菱自動車工業) 行木 稔 (富士重工業)
大庭秀洋 (トヨタ自動車) 高瀬清司 (明電舎) 前田昭一 (日産自動車)
鴨野亜生 (富士重工業) 種田良司 (三菱自動車工業) 松崎道範 (ポランディア)
上津原才司 (日本発条) 山田幸司 (日本大学) 中村錠治 (デンソー) 宮村智也 (本田技術研究所)
川元康裕 (コマツ) 中村雅憲 (中部大学) 森永圭一 (東洋電機製造)

【運営】リーダー 土屋 高志(静岡理工科大学)

飯村秀士 (本田技術研究所) 小原英明 (ポランディア) 小杉将太 (本田技術研究所) 杉本尚輝 (スズキ) 野々村知美 (デンソー) 松浦拓弥 (三菱自動車工業)
生原尚季 (トヨタ自動車) 澤田雅人 (本田技研工業) 後藤明之 (ポランディア) 鈴木久史 (スズキ) 柘植正邦 (本田技研工業) 橋本 優 (トヨタ自動車) 松本佳香 (ポランディア)
伊藤 潔 (ヤマハ発動機) 加山山秀樹 (本田技研工業) 小林麻子 (ポランディア) 鈴木光裕 (ポランディア) 辻 夏夫 (デンソー) 長谷川雅彦 (アイシン精機) 三ツ井 浩 (日産自動車)
上田真規 (本田技術研究所) 片山政彦 (デンソー) 小林正朋 (本田技術研究所) 鈴木義一 (アイシン精機) 寺塚康瑛 (ポランディア) 服部和史 (本田技術研究所) 元根義和 (日信工業)
上津原才司 (日本発条) 加藤雅大 (日産自動車) 齋藤拓也 (東京アールアンドデー) 清 秀敏 (いすゞ自動車) 寺崎貴行 (日産自動車) 原木良輔 (ヤマハ発動機) 盛 雅裕 (トヨタ自動車)
上野 亮 (ヤマハ発動機) 加藤健太郎 (ポランディア) 酒井 豊 (ダイハツ工業) 曾根健太郎 (横浜国立大学) 友岡諒介 (本田技術研究所) ハーカスグラト (ポランディア) 高角岳彦 (ポランディア)
宇佐美雅貴 (本田技術研究所) 狩野芳郎 (神奈川工科大学) 酒井 豊 (ダイハツ工業) 高林新治 (静岡理工科大学) 中島晴音 (日産自動車) 平城真太郎 (スズキ) 柳田悦豪 (デンソー)
海野敏夫 (ヤマハ発動機) 亀井宏貴 (三菱自動車工業) 櫻田 諒 (三菱自動車工業) 高橋周孝 (ポランディア) 中島章裕 (スズキ) 平本賢一 (ポランディア) 山川慶祐 (スズキ)
榎本啓士 (金沢大学) 川村健太郎 (名古屋外国語大学) 坂本亜沙美 (名古屋外国語大学) 竹本祐太 (本田技術研究所) 中島 彩 (デンソー) 藤井充宏 (静岡大学) 山崎雄介 (日産自動車)
久保祐子 (本田技研工業) 清水健一 (ヤマハ発動機) 清水健一 (ヤマハ発動機) 田中和宏 (ポランディア) 田中和宏 (ポランディア) 藤井拓哉 (ヤマハ発動機) 山本 隆 (デンソー)
荻原長武 (ケーヒン運輸) 栗原洋平 (スズキ) 清水達也 (ポランディア) 田中慎也 (神奈川工科大学) 茅野浩之 (コマツ) 前原洋一 (本田技研工業)
尾神典昭 (本田技研工業) 古賀諒摩 (トヨタ自動車) 庄司智和 (本田技研工業)

Event Sponsors

大会スポンサー

大会スポンサー

S	トヨタ自動車	日本キスラー	日清紡ブレーキ	大豊工業
	日産自動車	原田工業	日本自動車部品工業会	高田工業
	本田技研工業	フォーラムエイト	日本デルファイ・オートモーティブ・システムズ	タチエス
A	マツダ	B ホンダテクノフォート	ニッパツ	ダッド
	富士重工業	ミットヨ	日本ミシュランタイヤ	楯屋
	IPG Automotive	三菱電機	日野ヒューテック	DRD
	川崎重工業	ヨロズ	深井製作所	TPR
	スズキ	大成社	ブリヂストン	デュージャパン
	ソリッドワークス・ジャパン	豊田自動織機	ベクター・ジャパン	デンソーテクノ
	タマディック	市光工業	ヘンケルジャパン	東京オールアンドデー
	デンソー	明電舎	ポッシュ	東京海上日動火災保険
	日産車体	アイシン・エーアイ	マーレフィルターシステムズ	東京貿易テクノシステム
	日本精工	アイシン高丘	C マグナ パワートレイン	東日製作所
日立オートモティブシステムズ	愛知機械工業	マツダE&T	東洋電装	
VSN	アドヴィックス	丸紅情報システムズ	戸田レーシング	
三菱自動車工業	イグス	三井金属アクト	豊田鉄工	
ヤマハ発動機	いすゞ中央研究所	三菱自動車エンジニアリング	トヨタプロダクションエンジニアリング	
B	NOK	出光興産	武蔵精密工業	トヨタモデリスタインターナショナル
	日野自動車	Witzenmann Japan	モビテック	西川ゴム工業
	UDトラック	エイチワン	ヤンマー	ニチリン
	アイシン・エイ・ダブリュ	NSKワナー	ユタカ技研	D 日本精機
	アイシン精機	エフ・シー・シー	ユニバンス	日本特殊陶業
	アルテアエンジニアリング	エフティテクノ	ユニプレス	日本ナショナルインスツルメンツ
	イータス	オイレス工業	ヨコハマ・モータースポーツ・インターナショナル	バーチャルメカニクス
	いすゞ自動車	オートテックジャパン	ロバート・ウォルターズ・ジャパン	パイオラックス
	エイヴェルジャパン	C 岡谷鋼機	袋井商工会議所	浜名湖電装
	エクセディ	興津螺旋	愛三工業	バンドー化学
NTN	小野測器	アイシン・コムクルーズ	ビューズ	
オーテックジャパン	河西工業	曙ブレーキ工業	フジオセックス	
カルソニックカンセイ	コスモ石油ルブリカンツ	旭テック	富士通テン	
キグナス石油	三五	アスモ	富士テクノサービス	
キャタラー	山王テック	いすゞエンジニアリング	フューチャーテクノロジー	
ケーヒン	ジーテクト	白井国際産業	プライムアースEVエナジー	
KYB	シーメンスPLMソフトウェア	内山工業	ブリッド	
ジェイテクト	JX日鉱日石エネルギー	エイ・ダブリュ・エンジニアリング	プレス工業	
ジャトコ	JTB中部	エー・アンド・デイ	MathWorks Japan	
ジャトコエンジニアリング	榛葉鉄工所	HPCシステムズ	三菱製鋼	
新日本特機	住友ゴム工業	オートデスク	三ツ星ベルト	
住友電装	テイ・エス テック	オティックス	安川電機	
ゼット・エフ・ジャパン	デジタルプロセス	キリウ	ヤマハモーターパワープロダクツ	
センサータ・テクノロジーズ・ジャパン	東海理化	シーシーアイ	キャリフル	
タイコ エレクトロニクス ジャパン	豊田合成	ジェイアイ傷害火災保険	リクルートスタッフィング	
ダイハツ工業	トヨタ自動車東日本	ジョンソンコントロールズ	東京都自動車事業振興協会	
dSPACE Japan	トヨタ車体	鈴与グループ	電気自動車普及協会	
TBK	トヨタテクニカルディベロップメント	ソーシン	E 法多山名物だんご企業組合	
ニフコ	トヨタ紡織	大同メタル工業	ホテル観世	
日本イーエスアイ	日産テクノ	太平洋工業		

表彰スポンサー

日本自動車工業会会長賞(完走奨励賞)	日本自動車工業会
ICV総合優秀賞	小野測器
コスト賞	デュージャパン
プレゼンテーション賞	-
デザイン賞	オーテックジャパン
加速性能賞	住友ゴム工業
スキッドパッド賞	ヨコハマ・モータースポーツ・インターナショナル
耐久走行賞	モチュール/ブリヂストン
省エネ賞	日本ミシュランタイヤ
CAE特別賞	アルテアエンジニアリング
ベスト・サスペンション賞	ゼット・エフ・ジャパン
最軽量化賞	深井製作所
ジャンプアップ賞1位	ニッパツレーシング・ジャパン
ジャンプアップ賞1位~3位	袋井商工会議所
スポーツマンシップ賞	タマディック
ルーキー賞	ジェイアイ傷害火災保険
ベスト3面図賞	東京オールアンドデー
ベストエアロ賞	東京オールアンドデー
ベストラップ賞	キグナス石油
ベストEVシステム賞	ビューズ/電気自動車普及協会
EV総合優秀賞	ダイキン工業/静岡県
静岡県知事賞、EVクラス総合優秀賞	静岡県

提供スポンサー(運営協力)

消イオン容量型避雷針システム	落雷制御システムズ
バスケース	堀場製作所
清涼飲料水(現物支給)	大塚製薬
会場	静岡県小笠山総合運動公園
	静岡県病院協会
	静岡県看護協会
	袋井国際交流協会
	掛川国際交流センター
	袋井商工会議所
	ヴィーモ
	小野測器
	コマツ
運営協力	サトープレス工業
	静岡資材
	静岡文化芸術大学
	静岡理科大学
	スズキ
	スナップオン・ツールズ
	センサータ・テクノロジーズ ジャパン
	ゼスト
	中東遠総合医療センター

運営協力

中部大学
東京大学
東芝
東日製作所
童夢
東海保安システムズ
東洋電機製造
トヨタ自動車東富士研究所
名古屋外国語大学
日本大学理工学部
日本EVクラブ
日本レースプロモーション
日立製作所
福井工業大学
ブリヂストン
プロトラッド
マイスタークラブ(ホンダ)
矢崎総業
ヤマトグローバルロジスティクス
ヤマハ発動機
来夢
ラディカル

List of Team Awards

受賞チーム表彰

■総合表彰

賞名	受賞校	概要	提供
経済産業大臣賞	Graz University of Technology	静的審査、動的審査のポイントの最も高いチーム（総合優勝）	経済産業省
国土交通大臣賞	名古屋工業大学	安全技術、環境技術、新技術の評価ポイントの最も高いチーム	国土交通省
静岡県知事賞	京都工芸繊維大学	静的審査、動的審査（エンデュランス除く）、安全、騒音、軽量化の評価ポイントの最も高いチーム	静岡県
日本自動車工業会会長賞	大阪工業大学	全ての静的審査・動的審査に参加し、完遂・完走しているチーム（完走奨励賞）※事前提出書類の遅延及びエンデュランス後の騒音測定によるペナルティーを受けていないこと	日本自動車工業会
	京都工芸繊維大学		
	九州工業大学		
	King Mongkut's University of Technology Thonburi		
	静岡理科大学		
	成蹊大学		
	トヨタ名古屋自動車大学校		
	豊橋技術科学大学		
	Tongji University		
	名古屋工業大学		
	日本工業大学		
	日本自動車大学校		
	広島大学		
名城大学			
ものづくり大学			

■審査別種目表彰

賞名	受賞校	概要	提供
ICV総合優秀賞	1位 Graz University of Technology	ICVクラスの中で静的審査、動的審査のポイントの最も高いチーム	小野測器
	2位 京都工芸繊維大学		
	3位 名古屋工業大学		
	4位 同志社大学		
	5位 大阪大学		
	6位 日本自動車大学校		
EV総合優秀賞	静岡理科大学EV	EVクラスの中で静的審査、動的審査のポイントの最も高いチーム	ダイキン工業 静岡県
コスト賞	1位 同志社大学	コスト・製造審査のポイントの最も高いチーム	デュージャパン
	2位 京都工芸繊維大学		
	3位 大阪大学		
デザイン賞	1位 Graz University of Technology	デザイン（設計）審査のポイントの最も高いチーム	オーテックジャパン
	2位 京都大学		
	3位 大阪大学		
プレゼンテーション賞	1位 同志社大学	プレゼンテーション審査ポイントの最も高いチーム	-
	2位 金沢大学		
	3位 Graz University of Technology		
加速性能賞	1位 Graz University of Technology	アクセラレーション（加速性能）審査のポイントの最も高いチーム	住友ゴム工業
	2位 日本自動車大学校		
	3位 Liaoning University of Technology		
スキッドパッド賞	1位 Graz University of Technology	スキッドパッド審査のポイントの最も高いチーム	ヨコハマ・モータースポーツ・インターナショナル
	2位 京都工芸繊維大学		
	3位 京都大学		
オートクロス賞*	-	オートクロス審査のポイントの最も高いチーム	ブリヂストン
耐久走行賞	1位 Graz University of Technology	エンデュランス（耐久走行）審査のポイントの最も高いチーム	MOTUL ブリヂストン
	2位 名古屋工業大学		
	3位 豊橋技術科学大学		
省エネ賞	1位 日本工業大学	効率審査のポイントの最も高いチーム	日本ミシュランタイヤ
	2位 名古屋工業大学		
	3位 Graz University of Technology		

*オートクロス賞の表彰は、9月3日に予定されていたオートクロス審査が悪天候により中止となったため、本賞は中止となりました。

■特別表彰

賞名	受賞校	概要	提供
ルーキー賞（ICVクラス）	Graz University of Technology	日本大会初参加のICVクラスの中で静的審査、動的審査のポイントの最も高いチーム	ジェイアイ傷害火災保険
ルーキー賞（EVクラス）	Tongji University	日本大会初参加のEVクラスの中で静的審査、動的審査のポイントの最も高いチーム	
CAE特別賞	1位 Graz University of Technology	CAE技術を効果的に活用している評価ポイントの最も高いチーム	アルテアエンジニアリング
	2位 京都大学		
	3位 工学院大学		
最軽量化賞（ICVクラス）	1位 Graz University of Technology	全ての審査に参加したICVクラスの中で最も軽量化車両チーム	深井製作所
	2位 京都工芸繊維大学		
	3位 名古屋工業大学		
最軽量化賞（EVクラス）	1位 東北大学EV	全ての審査に参加したEVクラスの中で最も軽量化車両チーム	
ベスト・サスペンション賞	1位 Graz University of Technology	サスペンション性能評価が高いチーム	ゼット・エフ・ジャパン
	2位 京都大学		
	3位 名古屋大学		
ジャンプアップ賞	1位 トヨタ名古屋自動車大学校	全審査参加チームのうち、前回大会比で最もポイントをアップさせたチーム	ニコル・レーシング・ジャパン 袋井商工会議所
	2位 大阪工業大学		
	3位 成蹊大学		
EV オートクロス賞*	-	EVクラスの中で、オートクロス審査のポイントの最も高いチーム	電気自動車普及協会
スポーツマンシップ賞	ものづくり大学	スポーツマンシップの評価が高いチーム	タマディック
	Liaoning University of Technology		
	Korea Tech		
ベスト3面図賞	京都大学	設計行為の集大成である図面を通じて審査員に最もより多くの情報を適確に伝えたチーム	東京R&D
ベストエアロ賞	京都大学	オートクロスまでを完走したチームの中で、レーシングカーとしてもっとも効果的な空力解析および熱流体解析を行い、実践したチーム	
ベストラップ賞	1位 Graz University of Technology	エンデュランスのラップタイムが最も速いチーム	キグナス石油
	2位 名古屋大学		
	3位 豊橋技術科学大学		
ベストEVシステム賞	トヨタ名古屋自動車大学校EV	EVクラスの中で動的審査のポイントの最も高いチーム	ビュース 電気自動車普及協会

*9月3日に予定されていたオートクロス審査が悪天候により中止となったため、本賞は中止となりました。

Outline of Event

大会概要

大会趣旨

主役である学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力を競い、産学官民で支援して、自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材を育成する。

大会基本方針

学生に、学会として、ものづくりの機会を提供することにより、

- ① 学生の自主的なものづくりの総合力を育成する。
- ② 学校教育と連携する実践的な学び場としての教育的価値を高めていくこととする。

大会運営指針

- ① 安全確保を最優先とした、ものづくり検証の場とする。
- ② 産学官民連携による運営とする。
- ③ 個人・法人の広範なボランティアによる運営とする。
- ④ 公益事業として運営する。
- ⑤ 企業の枠を超えた技術者の交流に資するため、学生フォーミュラ参加者のネットワークを構築する。

審査概要

種目 Category	概要 Outline	配点 Point	
車検 Technical Inspection	【技術検査】 ルールに定められた車両の安全・設計要件の適合性確認、 【チルト】 車両45度傾斜で燃料漏れ確認、ドライバー乗車し車両60度傾斜で転覆しないことの確認、 【騒音(ICVクラスのみ)】 所定の条件で排気音レベル確認(110dB以下)、 【ブレーキ】 4輪ブレーキ(4輪ロック)を確認・検査、 【レイン(EVクラスのみ)】 絶縁がされているかを確認。	—	
静的審査	コスト Cost	コスト計算は、生産活動を行なうにあたり考慮しなければならない重要な要素です。学生は年産1000台を仮定したコストテーブルに基づき事前提出書類を提出し、コストの妥当性を審査します。また、リアルケースシナリオでは指定した部品の製造工程などの口頭試問を行ない、それらの知識・理解度を評価します。	100
	プレゼンテーション Presentation	学生のプレゼンテーション能力を評価することが狙い。『市場要求に合った車両の製造・販売を含むビジネスプランを会社役員へ納得させる』という仮想のシチュエーションで行ないます。	75
	デザイン(設計) Design	チームからの事前提出書類と車両をもとに、設計の適切さ、革新性、加工性、整備性、組立性などを口頭試問により審査します。	150
動的審査	アクセラレーション Acceleration	0-75m加速性能を各チーム2名のドライバーがそれぞれ2回、計4回走行し競います。	75
	スキッドパッド Skid-pad	8の字コースによるコーナリング性能を各チーム2名のドライバーがそれぞれ2回、計4回走行し競います。	50
	オートクロス Autocross	直線・ターン・スラローム・シケインなどによる約800mの複合コースを1周走行します。各チーム2名のドライバーがそれぞれ2回、計4回走行し、タイムを競います。	150
	エンデュランス Endurance	直線・ターン・スラローム・シケインなどによる周回コースを約20km走行します。各チーム2名のドライバーが中間点で交代して走行し、走行性能、耐久性など車の全体性能と信頼性を競います。	300
	効率 Efficiency	エンデュランス走行時の燃料・電力消費量を評価します。	100
その他 Others	車重計測、騒音・排ガス測定(ICV(ガソリン)クラスのみ)を実施します。	—	
合計 Total Points		1000	

車両の主な設計要件・安全要件

Formula SAE® 2015ルールに準拠

一般要件

- タイヤがカウルで覆われていない、オープンコクピットのフォーミュラスタイルの4輪車両
- ホイールベース1525mm以上。トレッドは、フロントまたはリヤの大きい方に対して75%以上。ホイールは8インチ以上。ボディーワーク：コクピット開放部に対する要件を除き、車両前端からメインロールフープまたはファイヤーウォールに至る間のドライバーコンパートメントに開口部があってはならない。
- 横転・正突・側突時にドライバーを保護するために、フロント・リヤのロールフープ、バルクヘッド前方のクラッシュゾーン、サイドプロテクション、フレームメンバー等については構造・材料など詳細を規定。ブレーキは4輪すべてに作動し、独立した2系統の液圧回路を有すること。ブレーキペダルのすっぽ抜け時、それを検知しエンジン停止するスイッチを装備のこと。
- 拘束システム（5または6点式シートベルト）、保護用具（ヘルメット、スーツ、手袋など）、視認性、ヘッドレスト、ドライバー脱出5秒以内、転覆安定性、防火壁、消火器等について詳細を規定。

ICV

- 4サイクルエンジンで排気量610cc以下。オリジナル設計の過給機の装着は可。リストリクター（吸気流量制限装置）の最大直径は20mm。排気音量は排気口から水平面45度、50cmの位置において所定の回転数で110dB以下。燃料タンクはメインフープとタイヤを結ぶ面の内側に装備。

EV

- 最大公称作動電圧は600VDC。
- バッテリーからの最大電力は、100msを超えて連続的に85kwより多く使わないこと、もしくは500msの移動平均値が85kwを超えないこと。
- 回生は許されるが時速5kmを超える車速で作動すること。



公益社団法人 自動車技術会
全日本 学生フォーミュラ大会

Event Schedule

大会スケジュール

